

特定非営利活動法人 地球の友と歩む会／LIFE

■ビジョン

インドとインドネシアの農村の人々が自然と共生し、自立して暮らせる社会を目指します。

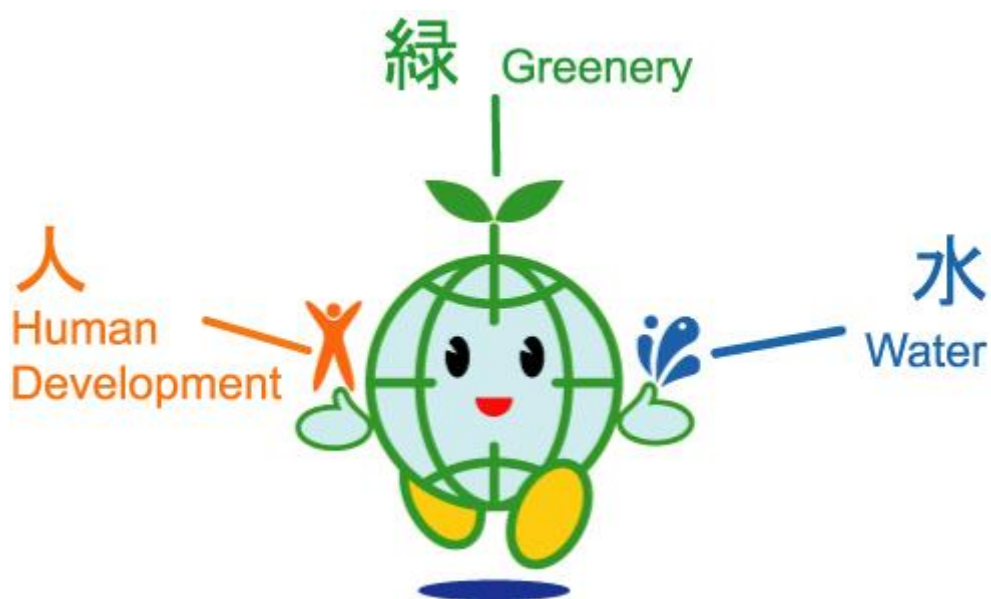
■ミッション

私たちとビジョンを共有する現地 NGO と協力し、「水・緑・人」をテーマに支援します。

■活動内容

水・緑・人で国際協力

- ・水：農業用水、生活用水の確保など
- ・緑：自然と共生するための植林、有機農業の普及など
- ・人：農村の自立を実現・維持するための人材育成など
- ・現地との交流（スタディーツアー、ワークキャンプなど）
- ・日本での啓発活動（講演会や文化体験など）





南インド 農村部が抱える問題

●農業で生計を立てられない

- ・ お金持ちの農家しか井戸を持っていないため乾期に農業ができない
- ・ 肥料や殺虫剤を身近なもので作れること、作成方法を知らない
- ・ 化学肥料や農薬を購入しても知識不足で過剰投与、土地を劣化させてしまう

●不安定な出稼ぎ労働と女性の就労問題

- ・ 雨季になっても降雨量が足りず農業で生活することが厳しい
- ・ 乾期に都市へ出稼ぎに行っても学歴もないため低賃金の日雇い労働しかない
- ・ 女性は村の外に出て働くことに偏見や抵抗感があり、乾期に仕事がない

●高等教育に対する憧れと現実

- ・ 教育に熱心。子どもには家業である農家を辞めて別の職業について欲しいという思いを持つ家庭が少なくない。
- ・ 中学校までの進学率は9割だが高等教育への進学にはお金がかかるため断念している家庭が多い。
- ・ 近年は女性の高等教育進学に対する抵抗感も減った。しかし経済的な理由から断念している家庭も多い。

LIFE が行う支援策

●有機農業研修

- ・ 乾期でも農業が出来る給水設備や灌漑、チェックダムの設備投資
- ・ ミミズを用いた堆肥の作り方や政府等の有機認証制度の活用
- ・ 土地や経済的な負担の掛らない農法（有機農法）の研修実施

●野菜の販路確保・女性の就労支援

- ・ 有機野菜を富裕層へ卸し、安定的な収入を確保する
- ・ 地場産業である縫製工場を村の中に作り女性の就労先にする
- ・ ミシン研修を行いながら技術の向上を目指し所得を向上させる

●教育ローン基金の設立と運営

- ・ SHG（セルフ・ヘルプ・グループ）、近隣の女性だけで組織された互助会を通して教育ローン基金を運営してもらう
- ・ メンバー同士で話し合い、成績優秀者を決めて高等教育に必要な資金を低利子で貸し付ける
- ・ 返済金額の利子を積み立てて教育ローン基金利用者を増やす



インドネシア スンバ島 東部が抱える問題

●収入を得る手段がない

- ・親から引き継いだ伝統的な自給自足の生活、原始的な農業しか知らない。
- ・今の環境破壊が進んだスンバ島で自給自足の生活をするのは厳しい。
- ・現金収入を得られないため、学用品を買うことさえ厳しい。

●自然環境が破壊されている

- ・生活のために木を切りすぎて森が島の1割しかない
- ・木を育てないと森が復活しないことを知らない、木を育てる意識がない。
- ・家畜を放牧している。木の苗を植えても家畜から守るという意識がない。

●貧困から抜け出せない

- ・ペンやノート、通学カバンを買えない貧困家庭が多く、学校での勉強に意味を見出せず小学校を中退してしまう子もいる。
- ・学校には読書ができる本がなく知識を得る手段が少ない。電波も飛んでないためラジオやテレビ、ネットも繋がらない。水汲みの手伝いなどで学校を遅刻する子も多い。
- ・小卒、中卒となった貧困家庭の子は親の農業を引き継ぎ、一生を村の中で過ごすことになる

LIFEが行う支援策

●野菜作り研修

- ・乾期でも農業が出来る給水設備の提供
- ・家畜や植物などから有機肥料を作る方法、苗を育てる方法を教える
- ・野菜を市場で売って現金収入を得られるようにする

●マングローブ林の植林

- ・破壊されたマングローブ林を復活させるため植林をする
- ・森の大切さや苗を育てる意識をもつメンバーがいる地域で植林する
- ・教会や行政、軍関係者などが植林に参加し森を育てる意識を広げる

●知識を得る手段を増やす

- ・通学カバンを東スンバ島の全小学校へ配布予定。片道2時間の山道通学でも、宿題などの学用品を持ち帰れるようにする。
- ・インドネシア語の図書や日本から翻訳した絵本を寄贈。文字や知識に触れる機会を増やす
- ・野菜作り研修を通して「自分たちは何もできない」「野菜作りなんて自分たちには出来ない」という自信喪失を壊す

2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画／報告／2019年度 計画案

2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インド】 担当：2018年度 米山</p> <p>① 貧困農家の有機農業の支援-1 事業名称：有機農業推進の基盤整備事業フォローアップ 活動期間：2018年4月～2019年3月まで 現地協力：CIRHEP (Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection) 資金財源：自己財源 活動地域：タミルナドゥ州トッパンパティ地区デバトール、コタヤム村 活動背景：有機農業の知識・技術普及と有機農産物市場開拓、 農業生産性向上と農業労働者の所得向上 計画進捗：定期的なモニタリングとアドバイス 期待成果：30名のモデル農家が有機農産物認証を取得。 種類が少なくできる作業に限界がある。利用者がそれぞれ負担して購入していくには高価なものなので、今後どのように解決していくか検討していく必要がある。 現在、町に野菜の即売所があるが販売できる野菜の種類も少なく十分な利益が出ていない。また、町まで運ぶ輸送経費もかかりどのように利益をあげていくかも課題となっている。</p>	<p>支援事業【インド】 担当：2018年度 米山</p> <p>① 貧困農家の有機農業支援-1 事業名称：有機農業推進の基盤整備事業フォローアップ 活動期間：2018年4月～2019年3月 現地協力：CIRHEP (Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection) 資金財源：自己財源 活動地域：タミルナドゥ州トッパンパティ地区デバトール、コタヤム村 活動背景：有機農業の知識・技術普及と有機農産物市場開拓、 農業生産性向上と農業労働者の所得向上 計画進捗：定期的に担当スタッフがモニタリング、報告 活動成果：全体で60名の農家のうち残り30名のモデル農家が有機農産物認証を申請、2018年9月取得。有機野菜即売所をオダンチャトラム市内に開設したが10月に閉店。定期的な野菜の出荷が出来ず。 治水工事により耕作面積が拡大。地下水位の上昇。 有機農産物の高値販売の実現。レンタルトラクターも2カ村で12件の貸し出しがあった。 活動課題：有機肥料の継続的な生産、事業参加農家は100%が有機肥料づくりを実践。(農地面積は半分にとどまっている)有機生産物の販売ルートの開拓が課題。</p>	<p>支援事業【インド】 担当：2019年度 米山</p> <p>① 貧困農家の有機農業支援-1 事業名称：有機農業推進の基盤整備事業フォローアップ 活動期間：2019年4月～2020年3月まで 現地協力：CIRHEP (Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection) 資金財源：CIRHEP 自己財源にてモニタリング 活動地域：タミルナドゥ州トッパンパティ地区デバトール、コタヤム村 活動背景：有機農業の知識・技術普及と有機農産物市場開拓、 農業生産性向上と農業労働者の所得向上 計画進捗：定期的なモニタリングとアドバイス 期待成果：有機農産物の定期販売の実現。有機農産物生産者の要望を踏まえて販売所を設置予定。</p>

◆受益者の声：

有機農業をおこなってきて化学肥料購入経費が削減され少しだが着実に家計が楽になってきているよ。農地も有機肥料を増やしているおかげで農業生産が上がってきたが、最近野菜の値段があまりよくないんだ。農家ではみな同じような種類の野菜をつくるので価値が下がっているんだ。今後は農家同士で話し合い多品種の野菜をつくるようにしたいと思っているんだ。もう一つの課題は販路をどのようにしていくかだ。野菜の仲買人に頼るとどうしても買い叩かれるからね。

2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インド】 担当：2018年度 米山・望月(インターン)</p> <p>②貧困農家の有機農業の支援-2 事業名称：有機農業に関する基盤整備及び農村開発事業 活動期間：2018年4月～2019年3月（3年間事業の2年目） 現地協力：REYDS TRUST (Rural Education Youth Development Society) 資金財源：外務省 NGO 連携無償資金協力 活動地域：タミルナドゥ州ディンディグル県サナルパティ地区、マンマラスパティ村、S・バラス村、2か村、受益者150名 活動背景：降雨量の不足により農業期間が短いため生産物が少ない、土壌が疲弊しているため収穫が少ない、これによる貧困状態に陥っている。 活動計画：農業生産性向上のための治水工事、有機肥料づくり研修、灌漑設備（チェックダム、農業貯水池、耕起・整地、堤建設）ミミズ堆肥生産、有機認証申請、有機農産物販売計画策定、育苗場・シードバンク施設候補地選定。 期待成果：農業用水確保のための掘削井戸建設、土壌改善がされることによる農耕面積の拡大、有機農法による農業生産物の収穫が増加 有機農産物の販路開拓 活動課題：農民の有機農法への理解と実践が可能となるか、組合組織への協力と参加度、農家間での情報、経験値の共有化。</p>	<p>支援事業【インド】 担当：2018年度 米山・望月(インターン)</p> <p>②貧困農家の有機農業の支援-2 事業名称：有機農業に関する基盤整備及び農村開発事業 活動期間：2018年4月～2019年3月 現地協力：REYDS TRUST (Rural Education Youth Development Society) 資金財源：外務省 NGO 連携無償資金協力 活動地域：タミルナドゥ州ディンディグル県サナルパティ地区、マンマラスパティ村、S・バラス村、2か村、受益者150名 活動背景：降雨量の不足により農業期間が短いため生産物が少ない、土壌が疲弊しているため収穫が少ない、これによる貧困状態に陥っている。 計画進捗：有機肥料ミミズ肥料生産は1年次は20トンを生産、各農家に配布。治水工事は計画通り完成。有機認証申請、農民組合の結成 治水工事視察、有機農家の視察 活動成果：ミミズ堆肥の施肥によりトマト栽培農家は前年度に比べて生産高が2割増加した。有機肥料生産により150農家で化学肥料購入経費が3割削減された。有機農産物販売市場が6か所選定された。その他販売方法として市内での路上販売、宅配方式が検討された。 活動課題：有機農産物認証が取得できたので大いにアピールし、販路拡大につながる方策が必要になる。</p>	<p>支援事業【インド】 担当：2019年度 米山・望月(インターン)</p> <p>②貧困農家の有機農業の支援-2 事業名称：有機農業に関する基盤整備及び農村開発事業 活動期間：2019年4月～2020年3月（11月より3年間事業の3年目） 現地協力：REYDS TRUST (Rural Education Youth Development Society) 資金財源：外務省 NGO 連携無償資金協力 活動地域：タミルナドゥ州ディンディグル県サナルパティ地区 S・バラス村、マーマラスパティ村2か村 受益者150名 活動背景：降雨量の不足により農業期間が短いため生産物が少ない、土壌が疲弊しているため収穫が少ない、これによる貧困状態に陥っている。 活動計画：ミミズ堆肥場の新規設置により堆肥の生産量の増加、育苗農地の設置、シードバンク開設により野菜品種の増加と保存ならびに生産量の拡大、有機農産物の販路確保による収入向上、有機認証取得による認知度の向上 期待成果：農民の有機農法への理解が深まり化学肥料からの移行を促進することが可能となる。多品種の農産物生産が可能となる。マーケットの開拓のために輸送手段としてトラックを導入して輸送量を拡大していく。 活動課題：有機農産物への理解促進を図るためのプログラム開発、有機農産物販路開拓と安定経営の施策。</p>

◆受益者の声：事業の2年目となり長く続けられる農業をめざして野菜や果樹の種を業者から買わなくても済むような施設ができるので大いに期待している。これからは我々ももっと勉強して多品種の野菜作りや、どのような販売方法があるか、各地でのうまくいっているところから学んでいきたい。また、農民同士が協力して3年間の事業が終了してからも農業が安定したものになるようこれから計画を立てていきたい。

2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インド】 担当：2018年度米山</p> <p>③SHGによる教育ローン・ヤギローン運営支援 事業名称：教育ローン支援事業 活動期間：2017年4月～2019年3月 [2012年より開始された事業] 現地協力：CIRHEP (Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection) 資金財源：個人会員の指定寄付 活動地域：タミルナドゥ州、ニラコタイ地区10のSHG ウタヤム連合、スリ・ムタランマン SHG 活動背景：高等教育ローン制度導入による経済的支援 活動計画：ウタヤム連合・・・安定した運営<原資の支援はなし> スリ・ムタランマン・・・教育ローン原資の支援 定期的な活動のモニタリング 期待成果：教育ローン受給者で返済終了者の就職進路</p> <p>活動課題：ウタヤム連合では原資支援を「自分たちのお金」との認識が不足。</p>	<p>支援事業【インド】 担当：2018年度 米山</p> <p>③SHGによる教育ローン・ヤギローン運営支援 事業名称： 活動期間：2018年4月～2019年3月 現地協力：CIRHEP (Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection) 資金財源：個人会員の指定寄付 活動地域：タミルナドゥ州、ニラコタイ地区10のSHG、のウタヤム連合、スリ・ムタランマン SHG 活動背景：高等教育ローン制度導入による経済的支援 計画進捗：ウタヤム連合、スリ・ムタランマン SHG ともに適正な運営管理がなされている。</p> <p>活動成果：返済率は約100%。連合のグループでは31名(これまでに60万ルピーローン実績)、スリ・ムタランマンのグループでは11名(35万ルピーの実績)が利用。 教育ローンやその他使い道が拘束されない少額(5,000ルピー前後)なローン開始されている。現在15名が利用。ウタヤム連合への資金提供は2016年度で終了。スリ・ムタランマン SHG も安定した教育ローン運営が可能となったため2018年度で資金提供は終了。</p> <p>活動課題：ウタヤム連合では今後安定した運営が可能になる体制づくり 会計担当者、記録係の研修</p>	<p>支援事業【インド】 担当：2019年度 米山</p> <p>③SHGによる教育ローン・ヤギローン運営アドバイス 事業名称：教育ローン運営アドバイス活動 活動期間：2019年4月～2020年3月 現地協力：CIRHEP (Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection) 資金財源：ウタヤム連合ならびにスリ・ムタランマン SHG による自主財源 活動地域：タミルナドゥ州、ニラコタイ地区11のSHG、のウタヤム連合スリ・ムタランマン SHG 活動背景：高等教育ローン制度導入による経済的支援 計画進捗：定期的なモニタリングとアドバイス 期待成果：継続的な安定運営</p>

◆受益者の声：教育ローンの活用で子どもの教育に関心がもてるようになりました。そして女性グループのメンバー同士で子どもの進路について情報交換をする機会にもなっています。月1回のSHG(女性の自助努力グループ)に加入しているので銀行からのローンも利用できるので少額でも子どもの教育費に充てることができるので助かっています。

2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インド】 担当：2018年度 米山</p> <p>④女性の職業訓練支援 事業名称：縫製研修事業フォローアップ 活動期間：201年9月～2019年3月 現地協力：JSWET(Jai Shakti Women Empowerment Trust) 資金財源：自己資金 活動地域：タミルナドゥ州マドライ地区、メーラカル村 活動背景：女性の経済的な自立が困難な村において縫製の技術訓練をおこない現金収入になる仕事を得ていく。 活動計画：50名のメンバーを対象にした縫製技能研修は、基礎訓練を受け、習得度に応じて電動ミシンによる服飾卸売業者より注文を受けられ現金収入が得られるようになる。また、州政府福祉機関より縫製研修受講証明書が発行され就職の機会になる。 期待成果：50名が縫製研修を受け、注文服の受注ができ、現金収集に結びつくようになる。 活動課題：支援事業が2018年3月で終了したので、それ以降継続的に技術訓練を受けて高度な縫製ができるようになる。そのための運営経費をどのように捻出していくか、検討していく必要がある。</p>	<p>支援事業【インド】 担当：2018年度 米山</p> <p>④女性の職業訓練支援 事業名称：縫製研修事業フォローアップ 活動期間：2018年9月～2019年3月 現地協力：JSWET(Jai Shakti Women Empowerment Trust) 資金財源：自己資金 活動地域：タミルナドゥ州マドライ地区、メーラカル村 活動背景：女性の経済的な自立が困難な村において縫製の技術訓練をおこない現金収入になる仕事を得ていく。 計画進捗：2018年度では受講生の有志10名が資金を出し合い、縫製指導講師の給与を賄い技術向上を図っていった。 活動成果：縫製研修受講証明書を受講生全員が取得して、そのうち3名がタミルナドゥ州認定の縫製工場で採用された。 活動課題：2019年度以降は受講生の自主運営により、技術向上を図り、縫製作業を受注して収入向上に努めていく。 2019年3月にてフォローアップ事業は終了。</p>	<p>新規支援事業【インド】 担当：2019年度 米山</p> <p>④女性の技能訓練支援 事業名称：収入向上のための研修、実習事業（新規事業1年目） 活動期間：2019年4月～2020年2月（3か年事業） 現地協力：REYDS TRUST(Rural Education Youth Development Society) 資金財源：アジア生協総合研究所<99万7千円> 活動地域：タミルナドゥ州ディンディグル県サナルパティ地区、マンマラスパティ村、S・バラス村、2か村、女性グループ受益者30名 活動背景：農業生産が減少し、特に女性の現金収入の手段が少なく困窮化を脱却するために新たな現金収入に結び付く技能研修を設ける。 活動計画：女性グループ組織運営、現金収入プログラム施策に向けての技能修得研修、成功例視察研修 期待成果：30名の女性グループメンバーが研修によって技能を修得し、具体的なプログラムを実践していく。 活動課題：女性グループメンバーの経験値が少ないので、フィールドワーカーによる親密な指導が不可欠</p>

◆受益者の声：タミルナドゥ州政府の職業訓練修了証書をもらったので今後ますます縫製の技能を向上させて服飾工場に就職していくことを希望しています。工場で働ければ定期的に安定した収入が得られるようになり、大いに家計の助けになっていくとおもいます。

2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>① スンバ島での有機農業推進（2014年に開始） 事業名称：スンバ島農村部低所得者のための野菜作り技術指導 活動期間：2018年4月～2019年3月 現地協力：ワインガップラジオマックスコミュニティ財団（ラジオ MAX） 資金財源：一般財団法人ゆうちょ財団 999,400円、自己資金 67万円 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県モンドゥランピ村 活動目的：就業機会のない農村部住民が野菜の栽培・販売で収入を得る。 活動計画：研修受講希望者を募り 20世帯 20名を選ぶ 研修内容は有機肥料の作成（家畜のフンと周辺の植物を利用）、有機防虫剤の作成（周辺の植物を利用）、育苗（苗ポットはバナナの葉で作成）、苗の畑への作付、作物の交配、野菜の世話等。 栽培する野菜は、たまねぎ、白菜、唐辛子、キャベツ、ゴーヤ、すいか、インゲン、チンゲンサイ、トマト、きゅうり、じゃがいも、なす、ブロッコリー、ほうれんそう、空芯菜など 期待成果：今年度の事業地である新規の村で一から野菜作り研修を行うが、これまでの経験を活かして研修終了までに就業する機会のない農村部住民が野菜栽培を行い販売して収入を得られるようになる。 活動課題：事業地が町から片道3時間と遠いところにあるが、事業地の管理が行き届くようにする。</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>①同左 事業名称：同左 活動期間：同左 現地協力：同左 資金財源：同左 活動地域：同左 活動目的：同左 計画進捗：給水設備整備、有機農業技術指導ともに計画通りに進み終了した。 研修終了後は、畑の面積を増やすために開墾作業をしている。 活動成果：モンドゥランピ村の17世帯17人が研修を受講し終了した。有機肥料作りや野菜作りの技術を身に付け、研修前は収入のなかった村人が野菜を販売し現金収入を得られるようになった。研修農場で収穫された野菜の販売額は合計およそ81,800円になった。（個人ではなく、グループ全体の売り上げ）収穫できるようになった野菜は、チンゲン菜、白チンゲン菜、白菜、トマト、唐辛子、スイカ、玉ねぎ、小松菜。 活動課題：思うように野菜が育たず安く販売したり、販売できそうにない野菜は家族で食べたり肥料にした。野菜作りの経験を積んで売れる野菜を栽培できるようにする。</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>①同左 事業名称：スンバ島農村部低所得者のための野菜作り支援 活動期間：2019年4月～2020年3月 現地協力：同左 資金財源：三菱商事株式会社からの寄付金の一部35万円 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県ワトゥンバカ村 活動目的：同左 活動計画：2018年度計画と同じ 期待成果：新規の村であるワトゥンバカ村で一から野菜作り研修を行う。ワトゥンバカ村の住人は乾季に川に溜まる砂をワインガップの業者に販売して暮らしている。売り上げは村で一年間におよそ1万円程度。現地 NGO は、これまでの野菜作り指導の経験を活かして研修終了までに住人が野菜栽培を行い販売して収入を得られるようにする。 活動課題：これまで村の住人だけでナスやトマトの栽培を試みてきたが、知識がないために野菜が育たないという失敗を繰り返している。研修を受講し正しい知識を得て野菜作りを行う。</p>

◆受益者の声：

とにかく現金収入を得られるようになったことが嬉しいです。私たちが野菜作りをしていることを聞いて郡長が村の畑まで視察に来てくれました。そして、私たちが現金収入を得られるようになったことをとても喜んでくれました。化学肥料を使っていないこともほめてくれました。初めての野菜作りだったので思うように野菜が育たず安い値段で売ったり、販売できるような野菜に育たないこともありました。でも、試行錯誤して売れるような野菜ができるようにしようと思っています。私たちはこれからも野菜作りを頑張ります。

収穫して保存している玉ねぎ



畑に設置した貯水タンク



草むしりをする研修参加者



収穫した白菜



2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>② スンバ島での植林推進（2015年に開始） 事業名称：緑化推進のためのマングローブ植林事業 活動期間：2018年7月～2019年6月 現地協力：ワインガップラジオマックスコミュニティー財団（ラジオ MAX） 資金財源：資金財源：緑の募金 53.1万円、カリッジマーケット 30万円、自己資金 22万円 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県カル村 活動目的：荒廃した自然環境の回復のため 活動計画： マングローブ苗木 3,500本植林、植林イベントの開催、現地メディアへの広報活動、植林後の見回り、海岸のごみ拾い。 期待成果：地元住民の環境保全への理解が定着する。</p> <p>活動課題：植林後のマングローブの管理。植林地のごみ拾い。盗伐の監視。</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>②同左 事業名称：同左 活動期間：同左 現地協力：同左 資金財源：同左</p> <p>活動地域：同左 活動目的：同左 計画進捗：同左</p> <p>活動成果：沿岸部の環境保全のため教会の日曜学校やワインガップの高校が中心となりマングローブをおよそ3,500本植林。3月15日にはLIFEのスタディツアーのアクティビティとして日本人も参加して植林を行った。（当日は1,250本の苗木を植林）2018年度はのべ300人たちが植林活動に参加した。植林後の海岸には、渡り鳥がたくさん飛来するようになった。野鳥の会が写真を見たところ、日本からの渡り鳥も含まれているのではないかとのことだった。</p> <p>活動課題：LIFEが植林した苗木ではないが、元々あるマングローブの盗伐が続くようになった。現地NGOが植林地を毎日見回っているが、木をお金にしたい人たちが伐採してしまう。また、自宅から車でゴミを持ってきて海岸に捨てる人もいた。現地NGOがマングローブの海岸をピクニックに行きたくなる海岸と情報発信しているため、環境保全への理解が定着しつつある地元住民以外の人にも海岸の認知度が上がったためではないかと考えられる。</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>②同左 事業名称：同左 活動期間：2019年7月～2020年6月 現地協力：同左 資金財源：緑の募金 54.5万円（申請中）、カリッジマーケット 10万円 活動地域：同左</p> <p>活動目的：同左 活動計画：マングローブ苗木 3,500本植林、植林イベントの開催、現地メディアへの広報活動、植林後の見回り、海岸のごみ拾い、木の大切さについて分かりやすいストーリーにした絵本の作成。 期待成果：現地NGOが情報発信することにより地元住民だけでなく海岸を訪れる人たちに環境保全への理解が定着する。</p>

◆受益者の声：

もう何回も植林活動に参加しています。ですから、海岸にゴミを捨ててはいけないことを理解しています。子どもたちにも海岸にゴミを捨ててはいけないこと、ゴミを見つけたら拾って片付けることを教えました。今では私が何も言わなくてもゴミを片付けるようになりました。



2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>③ スンバ島農村部の子ども支援-1 (2016年に開始) 事業名称：東スンバ島農村部の子どもの教育環境改善事業 (2年目) 活動期間：2018年4月～2019年3月 現地協力：東スンバ島教育局 資金財源：日本労働組合総連合会 50万円、自己資金 8.4万円 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ島、中部ジャワ 活動目的：東スンバ島農村部の低所得者層家庭で通学用バッグを購入できない子どもたちにバッグを配付し、学力向上・通学意欲の継続を目指す。更にバッグ製作者である中部ジャワの貧困世帯の主婦たちの現金収入増加を目指す。2017年度にバッグを配布された子どもたちの生活を調査し、まとめた冊子を作成する。</p> <p>活動計画：新しいデザインでバッグを2,000個作成する。ミシン掛けのできる人を新たに1名育成する。1年目にバッグを配付した小学生の使用状況などを調査する。1年目の活動をまとめた冊子を作成する。</p> <p>期待成果：子どもたちへ通学用バッグ2,000個の支給。活動をまとめた冊子の作成。</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>③同左 同左</p> <p>活動目的：東スンバ島農村部の低所得者層家庭で通学用バッグを購入できない子どもたちの学力向上・通学意欲の継続、ならびにバッグ製作者である中部ジャワの貧困世帯の主婦たちの現金収入増加を目指す。2017年度にバッグを配布された子どもたちの生活を調査し、まとめた冊子を作成した。また、活動が継続できるよう新人を育成しミシン掛けのメンバーを増やした。</p> <p>計画進捗：2,000個の通学バッグの作成、初年度の活動を記録した冊子の作成、新人の育成。</p> <p>活動成果：2,000個の通学バッグをスンバ島の小学生に配付した。活動を記録した本を50冊作成し、関係者に配布した。新人育成により新たに1名ミシン掛けができるようになり、1年間で通学バッグを作れるようになった。</p> <p>活動課題：2年目の事業なのでバッグ作成メンバーたち自身で計画を立てて進めた。今年度は郵便事情が悪く、スンバ到着までに時間がかかってしまった。2019年度は1か月前倒しでバッグの作成を進める。</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>③同左 事業名称：同左 (3年目) 活動期間：2019年4月～2020年3月 (5か年事業の3年目) 現地協力：同左 資金財源：同左 活動地域：同左</p> <p>活動目的：東スンバ島農村部の低所得者層家庭で通学用バッグを購入できない子どもたちにバッグを配付し、学力向上・通学意欲の継続を目指す。更にバッグ製作者である中部ジャワの貧困世帯の主婦たちの現金収入増加を目指す。バッグ製作が順調に継続できるよう新たにメンバーを育成する。</p> <p>活動計画：新しいデザインを考案しバッグを2,000個作成する。ミシン掛けのできる人を新たに1名育成する。2年目にバッグを配付した小学生で使用状況などの聞き取り調査をする。</p> <p>期待成果：新たに2,000人の小学生が通学用バッグの配付を受ける。ミシン掛けができるメンバーが1名増える。</p> <p>活動課題：郵便事情の悪さを考慮し、バッグ製作を早めに進め2020年1月には発送を終えたい。</p>

◆受益者の声：

バッグ作成のお仕事をいただき、現金収入が増えて家計が助かっています。
5ヶ年計画が終了したら縫製の仕事に就きたいので、今はこのプロジェクトを頑張っています。
スンバ島で作った冊子もありがとうございました。
私たちがやっていることがスンバ島の子どもたちのためになっていることが良くわかるので、とてもうれしいです。



新人育成



梱包作業



出来上がったバッグ



事業を記録した冊子

2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>④ スンバ島農村部の子ども支援-2 事業名称：東スンバ島農村部の子どもたちの絵本寄付事業（2016年開始） 活動期間：2018年4月～2019年3月 現地協力：ワインガップラジオマックスコミュニティ財団（ラジオ MAX） 資金財源：きしゃぼん古本募金 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県 活動目的： スンバ島には図書館がない。図書室がある学校もほとんどなく、あっても蔵書が少ない。スンバ島の子どもたちの将来の可能性を広げるためにラジオ MAX 事務所内に子ども図書館を作った。子どもたちは放課後ここへ来て自由に読書ができる。 活動計画：2018年度の古本募金から日本人のボランティアが参加。きしゃぼんからの寄付で日本で絵本を購入し、インドネシア語に翻訳したラベルを切り貼りしてその絵本にボランティアが翻訳を貼る。 期待成果：子どもたちが様々な本に接し、集中力を高めたり知識を増やす。その結果、学校での成績が伸びることが期待される。 活動課題：古本募金の宣伝を積極的に行い、寄付額を増やす。</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>④同左 事業名称： 同左 活動期間： 同左 現地協力： 同左 資金財源： きしゃぼん古本募金、株式会社三井住友銀行 活動地域： 同左 活動目的： 同左 計画進捗： 日本在住のインドネシア人や帰国子女の方たちに日本の絵本のインドネシア語訳を依頼した。その翻訳をボランティアの皆さんが絵本に切り貼りする。個人の方や企業などがボランティア活動にご参加いただき通年活動を行った。 活動成果： 66冊の絵本に翻訳の切り貼りをを行った。うち22冊をスンバ島の子どもたちに届けた。ラジオ MAX の子ども図書館に通う子どもの中にはクラスで一番の成績を収める子もいた。 活動課題： オーストラリア政府の資金で東スンバ島の小学校にインドネシア語の絵本を配付する事業が現地では行われている。そのため、私たちの絵本ボランティアを続ける意義があるのかという問題がある。</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>④同左 事業名称： 同左 活動期間： 2019年4月～2020年3月 現地協力： 同左 資金財源： きしゃぼん古本募金 活動地域： 同左 活動目的： 2017年度活動目的に同じ。 活動計画： きしゃぼん古本募金からの寄付で、インドネシアの都市部にある本屋さんで絵本を購入しラジオ MAX の子ども図書館の蔵書とする。 期待成果： 子どもたちが様々な本に接し、知識を増やす。本を読むことにより集中力を高める。その結果、学校での成績が伸びる。 活動課題： きしゃぼん古本募金の広報活動を行う。翻訳者の確保。絵本の確保。現地のニーズ確認。</p>

絵本ボランティアの様子



絵本を読むスンバ島の子ども



2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>⑤ スンバ島農業支援 事業名称：スンバ島のバナナ復活支援事業（2019年開始） 活動期間：2018年7月～2019年3月 現地協力：MARADA 資金財源：2018年夏のひまわり募金寄付金のうち171,990円 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県 活動目的：スンバ島のバナナが病気にかかり枯れてしまい壊滅状態になってしまった。バナナはそのままでも売ることができるし、ピサングレン（バナナのでんぷら）にして売ることでもできる大事な資金源である。また近年は多くのバナナを他島へ出荷していて、産業の少ないスンバ島では貴重な資金源となっていた。</p> <p>活動計画：野菜作り支援で講師をしているラフマト氏が地元ジャワ島のバンドンで組織培養したキャベンディッシュ種のバナナの苗木をスンバ島へ移植する。レワやラカワツ地域の畑で育ててバナナを増やす。</p> <p>期待成果：バナナを増やし、スンバ島の他の地域にもバナナを移植して村人たちが以前のようにバナナを売って現金収入を得られるようになる。</p> <p>活動課題：初めての試みなので、必ずうまくいくとは限らず複数回バナナの栽培を試みたい。そのため数年かかる可能性がある。</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>⑤同左 事業名称：同左 活動期間：同左 現地協力：同左 資金財源：同左 活動地域：同左 活動目的：同左</p> <p>計画進捗：ラフマト氏が一時期バリ島のホテルの有機野菜栽培コンサルタントとして雇用されスンバ島を離れていたため、ジャワ島バンドンから持ってきたバナナの苗木は10月から1月ころまでバリ島で育てられた。その数は、121本。その後、MARADA代表 Ipu がバリ島からスンバ島へ苗木を運び、3月には用意した畑に植えた。</p> <p>活動成果：バナナ畑をラカワツ地域に用意し、ジャワ島からバリ島経由で苗木を運んで用意した畑に植えた。</p> <p>活動課題：これまで苗木ポットで育てていたが、初めて地面に移した。現時点ではうまく土に適合している。有機肥料と灌漑設備は準備が完了している。今後はMARADAがバナナ畑を管理し、数年後他の地域に分けていく。</p>	<p>事業はMARADAに移行。LIFEは状況を確認する。</p>

有機農業指導者ラフマト氏



苗木の数は、121本

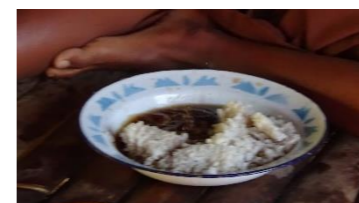


2018年度 海外協力・自然環境保全事業 計画	2018年度 海外協力・自然環境保全事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>支援事業【インドネシア】 担当：古賀</p> <p>計画なし</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>実績なし</p>	<p>支援事業【インドネシア】 担当：同左</p> <p>⑥同左 事業名称：インドネシアの子どもたちに、モリンガで栄養改善を 掲載期間：2019年4月19日～2019年5月31日 活動期間：2019年6月1日～2019年11月30日 現地協力：ワインガップラジオマックスコミュニティ財団（ラジオ MAX） 資金調達：クラウドファンディングサイト Readyfor 資金財源：Readyfor で達成した目標金額 100万円 活動地域：インドネシア・スンバ島東スンバ県農村部 活動目的：モリンガというたんぱく質、ビタミン、カルシウム、鉄分など 栄養豊富な植物を使った農村部貧困家庭のための栄養改善。 活動計画： 現地 NGO によるレシピ開発→村の奥さん向けに料理教室開催→ 料理をマスターした家庭は日常的にモリンガを食べて栄養を改 善する→料理をたくさん作れるようになったら販売して現金収 入を得る。 【費用使途】 レシピ（料理、菓子等）開発費 160,000円 サプリメント開発費 60,000円 開発に必要な設備や機材の購入費 120,000円 農村部女性へのレシピ指導料 150,000円 専門家（現地 NGO 職員）の渡航費、宿泊費、食費 50,000円 研修開催費用（台所借用、食材購入、研修会の広報等）40,000円 スンバ島でのバイク賃借料、およびガソリン代 40,000円 広報活動費（教材作成、活動 RP 等） 40,000円 当会管理費（渡航費、人件費、通信費等） 136,400円 リターン作成費 20,000円 READYFOR 手数料 183,600円 <u>必要金額合計 100万円</u> 期待成果：子ども、家族の栄養改善。料理や菓子の販売からの現金収入。 活動課題：活動期間の6ヶ月間でメニューを開発し、料理教室を開催し、 参加者に料理を覚えてもらう。</p>

モリンガ



村の子どもの食事の様子



2018年度 海外交流事業 計画／報告 ／ 2019年度 計画案

2018年度 海外交流事業 計画	2018年度 海外交流事業 報告	2019年度 海外協力・自然環境保全事業 計画案
<p>交流事業【インド】 担当：2018年度 米山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏期にツアー実施予定 ・春期にツアー実施予定 	<p>交流事業【インド】 担当：2018年度 米山</p> <p>交流事業は定員に達せず実施せず</p>	<p>交流事業【インド】 担当：2019年度 米山、望月</p> <p>① 交流事業～インドスタディツアー 事業名称：「緑と大地から学ぶ南インド10日間ツアー」 実施期間：2019年8月22日～31日まで（募集人数12名） 現地協力：REYDS (Rural Education Youth and Development Society) 実施地域：タミルナドゥ州チェンナイ市内、エスバラス村、マンマラスパティ村、マドライ市内 実施背景：現在すすめているインドでの有機農業事業を視察するとともに食と農、生命維持のための種の保存、伝統種を守る活動を学ぶ機会とする。また、有機農産物のマーケティングの現場を訪れ現地の人たちとの交流をとおしてアイデア、意見の共有化を図る。 計画進捗：参加者の5月7日から募集を開始。参加希望者は事前の研修会でどのような学びを期待するか共有する機会をもつ。 期待成果：経済のグローバル化の影響でインド農村部でなにが起こっているかを観察し、日本との関係、どのようなことを考え、取り組んだらよいかの示唆をえていく。</p>

■ 2018年度ツアー広報チラシ



■ 2019年度ツアー広報チラシ



2018年度 海外交流事業 計画	2018年度 海外交流事業 報告	2019年度 海外交流事業 計画案
<p>■海外交流事業【インドネシア】 担当：古賀／現地コーディネート：古賀</p> <p>・ツアー計画なし 会員の事業地訪問のコーディネートは依頼があれば可能な範囲で実施予定 ※ツアー安全管理講習会は全職員が参加予定</p>	<p>同左 担当：同左</p> <p>・2018年7月に現地 NGO ラジオ MAX よりマングローブの植林に日本人も参加できないか相談があり、高校生への日本語ボランティアも併せてツアーを開催することにした。当初問題があった現地での車両手配は風の旅行者の判断により身元の確かなドライバーにお願いすることで対処した。</p> <p>実施：2019年3月13日（水）～17日（日） ツアー参加者：1名</p> <p><ツアー内容> 3/13 バリ島集合。 3/14 スンバ島へ移動、2019年度有機農業支援地視察、塩作り集落見学、お花畑に立ち寄り、ワラキリ海岸観光。 3/15 マングローブの植林、市場散策、伝統村訪問。 3/16 ワインガップ第三高校で日本語ボランティア。福笑い、カルタ、スイカ割り、質問タイム。高校生宅にホームステイ。 3/17 バリ島へ移動、解散。</p> 	<p>同左 担当：同左</p> <p>・計画なし</p>

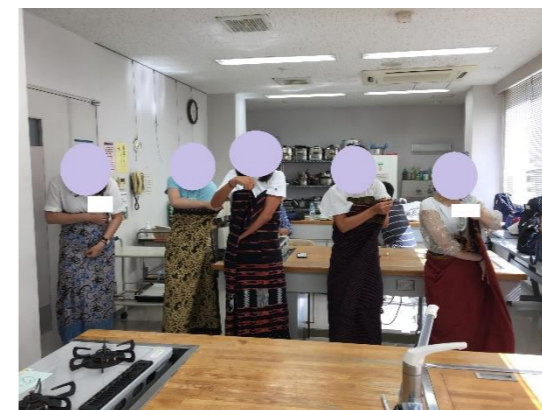
◆参加者の声：

①金や物の援助ではなく、現地の人が続けて担っていきけるやり方の支援。難しいですね。雨季でも水は貴重だった。携帯やPCが一部の人でしょうが利用が進んでいるというアンバランス。観光客が増えているし、開発の計画もありそうなスンバ。どう変わっていくのか。今あるよきものと開発がどう共存できるのか。②高校生宅にホームステイして分かった町に暮らす人々の貧困をどうしていったらいいのか。③スンバ島の発展ぶりに驚くやら、残念やら。観光名所にはカメラ、スマホを片手にまるで撮影会だ。観光客に自然が破壊されたりゴミが散在するのは残念だ。企業がスンバに進出すると現金収入になり生活が安定するだろうが、これまでの生活を放棄して現金に頼った生活になってしまう。将来観光業に就きたいという高校生を応援したいが、複雑な気持ちもある。今後スンバ島とどのように向き合っていくといいのか課題が残った。その答えを見つけられるようにしたい。

2018年度 国際理解促進事業 計画	2018年度 国際理解促進事業 報告	2019年度 国際理解促進事業 計画案
<p>【講座・イベント】</p> <p>① 大学での講義 北海道教育大学にて出張講義（米山の帰国時）</p> <p>② 自治体国際化協会からの講演会登壇 登録内容を変更して再登録の検討</p> <p>③ 学習会・講座の企画・開催 ボランティアへの社会的関心が広がっているため、ボランティア活動を絡めたイベントなどが集客あり。企画検討中。</p> <p>【中高生対象 NGO訪問学習】 4月 11日実施済 4名参加 L I F E活動内容、事業地文化体験、ボランティア体験など</p> <p>④ スタディーツアー研究会との協働 他NGOとの大学でのスタディーツアー説明会の事務代行 青山学院大学にてツアー説明会を5月29日に実施予定</p>	<p>①講義・講演会 北海道教育大学にて出張講義（米山） 助成元：ゆうちょ財団の依頼で講演会登壇（古賀）</p> <p>②同左 依頼なし</p> <p>③同左 【中学校修学旅行 NGO訪問学習】 4月11日実施 L I F E活動内容、文化・ボランティア体験など（参加4人）</p> <p>【最近よく聞くSDGsとは？～L I F Eの活動事例を通して～】 5月26日実施 2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」についてLIFEの活動を整理しながら理解を深める。（参加約15人）</p> <p>【体験・試食ボランティア ～遊んで食べて感想を教えてください！～】 9月3日実施 高校生が作成した島の現状が分かるゲームとチャイ・クルブックの試食。 伝統衣装の着付け体験（参加費1,000円、参加13人）</p> <p>④同左 スタディーツアー研究会の代表である米山がインド赴任のため、事務局機能や冊子販売拠点を他メンバーに譲渡。協働活動は特になし。ツアー説明会の事務局代行は他NGOが代行。</p>	<p>①同左 予定なし</p> <p>②学習会・講座・イベントの主催 ・NGO訪問学習の受け入れ ・南インドの有機農のNOW！（5/25開催予定） ・体験試食ボランティア企画（8月開催予定）</p>

■体験・試食ボランティア参加者の声

- ・とても楽しかったです。特にインドネシアのおかしを作って食べたのが楽しく、良い経験になりました。
- ・インド、インドネシアについて少し知ることができました。少しでもお手つだいになれば幸いです。
- ・皆さんフレンドリーに接して下さって楽しくできました。
- ・今回、ほんの少しですが文化について学ぶことができました
- ・サリーは思ったよりも着るのが簡単で楽しかったです。



2018年度 国際理解促進事業 計画・報告 / 2019年度 計画案

2018年度 国際理解促進事業 計画	2018年度 国際理解促進事業 報告	2019年度 国際理解促進事業 計画案
<p>⑤他団体主催のイベントへ参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルフェスタ JAPAN 主催：外務省・国際協力機構・国際協力NGOセンター 内容：活動紹介・物品飲食販売 <p>出展料：一般テント1張・飲食店テント1/2張 各17,820円の予定 ※本部ブースにて【スンバ島すごろくゲーム】【インドネシア語で自己紹介】【LIFE活動紹介】を実施予定 ※運営ボランティア・インターン・職員・理事にて実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体/企業等でのチャリティーバザーと活動紹介 主催：学校、企業等 内容：主催団体によるチャリティーバザーと活動紹介 ・ふれあい満点市場 主催：東京ボランティアセンター 内容：活動紹介・物品販売 ※運営は事務局・インターン各1名にて実施予定 ・第2回 ちよだコミュニティラボライブ！（開催未定） 主催：千代田区 内容：区内交流に興味がある方へ向けた活動紹介 ※今年度実施するか未定 ・その他イベント出展への検討 	<p>⑤ 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同左（9/29～9/30） 主催：同左 内容：活動紹介・物品飲食販売・民族衣装の体験 <p>出展料：一般テント1張・飲食店テント1/2張 各17,820円 ※本部ブースにて【スンバ島すごろくゲーム】を実施予定だった ※運営ボランティア約30名・インターン・職員・理事にて実施予定 ※台風で9/29（土）のみの開催、安全確保のためボランティア応募者には基本的に帰宅してもらい実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同左 主催：同左 内容：NPO 法人ラ・メール作製クッキー販売、ジャワ島ママグループ作成の小物販売、現地小物の販売など。 ・同左（2/9） 主催：東京ボランティアセンター 内容：活動紹介・物品販売 ※運営は事務局・インターン1名にて実施 ・第2回 ちよだコミュニティラボライブ！（2/9） 主催：千代田区 内容：区内交流に興味がある方へ向けた活動紹介 ※運営は事務局・インターンとボランティア各1名にて実施 <p>※アースディ東京は出展料が高額（展示だけで32,000円）、出品も人工化学添加物、遺伝子組み換え食品の不使用、フェアトレード製品の推奨を掲げているためハードルが高く不参加が続いている。</p>	<p>③同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同左（9月下旬予定） 主催：同左 内容：活動紹介・物品飲食販売・民族衣装の体験など ・同左 主催：同左 内容：NPO 法人ラ・メール作製クッキー販売、ジャワ島ママグループ作成の小物販売、現地小物の販売など。 ・同左 主催：東京ボランティアセンター 内容：活動紹介・物品販売 ・ちよだコミュニティラボライブ！ 主催：千代田区 内容：区内交流に興味がある方へ向けた活動紹介 ・第90回メーデー中央大会（4/27） 主催：日本労働組合総連合会（連合） 内容：活動紹介、民族衣装の体験、物品飲食販売の予定 ※主催者とは長年、助成金を賜っている関係で出店（出展）予定

■グローバルフェスタ参加者の声

台風接近で天気が悪かったですが、とても楽しい活動でした。また参加したいです。



■ちよだコミュニティラボライブ！で知り合った福祉系団体の声

利用者さんがいつも同じイベントでは飽きてしまうので、コラボ団体を探していた。切手の資金化ボランティアの話聞いて参加してみたいと思った。切手を貼っていく作業であれば無理なく利用者さんも活動できるし、社会貢献にも繋がるのが嬉しい。今後も末永くお付き合いいただきたい。

2018年度 組織強化 計画	2018年度 組織強化 報告	2019年度 計画案
<p>【会員・ボランティア】</p> <p>①会員数目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正会員 42名 賛助会員 70名 ・募金キャンペーンに合わせたの会員加入 ・会員交流に参加する非会員、寄付協力者から会員加入 ・旧ツアー参加者の会員継続のお願い ・退会後も募金案内等を通じた再入会のハードル下げ <p>②会員相互の交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居酒屋さんま 飲み会 (2～3カ月ペースで実施) ・会員主催の花見、田植え、稲刈り、花火鑑賞会の実施 ・参加者へ募金、入会の案内 <p>③ボランティアおよびインターン活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付切手の価値を高める「切手仕分隊」継続参加の呼びかけ ・ボランティア 70名以上参加を呼び掛け 物品寄付の整理、事務局の整理、整頓、清掃、イベント補助等 ・国内インターン継続 1名、新規 2名追加予定 イベント担当として高校生・大学生に募集予定 <p>【募金寄付金】</p> <p>①ひまわり募金(募集期間：6月～8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加 90の団体・個人 ・キャンペーン期間の募金・寄付 目標金額 70万円 ・クレジットカード寄付が可能なギブワンの活用 <p>②クリスマス年末募金(募集期間：11月～3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加 180の団体・個人 ・キャンペーン期間の募金寄付 目標金額 200万円 ・ギブワン寄付者の目に留まりやすいキャンペーン名を考案必須 <p>③マンスリーサポーター参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンスリーサポーターではなく名称を変更し参加しやすくするなど ・目標 7名参加 	<p>① 同左</p> <p>正会員 (37→36名 2→2団体 計 38名) 賛助会員 65→57名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規で2名の加入 ・「みらいの樹」コラム執筆等の機会での再入会 ・高齢化による退会理由が多い <p>② 交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居酒屋さんま 飲み会 (2～3カ月ペースで実施) ・会員主催の花見、田植え、稲刈り、花火鑑賞会の実施 ・参加者へ寄付お願い <p>③ 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付切手の価値を高める「切手仕分隊」継続参加中 ・切手をスムーズに郵便局で処理してもらう資金化ボランティア ・事務局での清掃やハガキの仕分け、封入作業ボランティア ・活動する切手や作業量が応募者に対して足りない問題 ・国内の高校生インターンが継続予定のため新規採用なし。 <p>①同左(募集期間：7月～9月)</p> <p>【インドネシア スンバ島に森の復活を】参加 80の団体・個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンペーン期間の募金・寄付 665,562円 (目標金額まで+約 16.5万円) ・ひまわり募金の7割インドネシア事業、3割を管理費として広報 ・ギブワンからの匿名募金が多い <p>②同左(同左募集期間：12月～3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【自然と共生し、自立して暮らせる社会】参加 230の団体・個人 ・キャンペーン期間の募金寄付 1,909,444円 (目標金額まで-約 10万円) <p>※クレジットカード寄付(入金5月以降)も含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金の7割を海外支援事業、3割を管理費として広報 <p>③同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と利用者に変動無し 	<p>① 同左</p> <p>会員 42名 賛助会員 70名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金キャンペーンに合わせたの会員加入 ・会員交流に参加する非会員、寄付協力者から会員加入 ・旧ツアー参加者の会員継続のお願い ・退会後も募金案内等を通じた再入会のハードル下げ <p>②交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居酒屋さんま 飲み会 (2～3カ月ペースで実施) ・会員主催の花見、田植え、稲刈り、花火鑑賞の実施 ・参加者へ募金、入会の案内 <p>③同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状のボランティア活動に代わる活動の模索 ・国内インターン継続 1名予定 <p>①同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加 90の団体・個人 ・キャンペーン期間の募金・寄付 目標金額 70万円 ・クレジットカード寄付が可能なギブワンの活用 <p>②同左(募集期間：12月～3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加 180の団体・個人 ・キャンペーン期間の募金寄付 目標金額 200万円 ・ギブワン寄付者の目に留まりやすいキャンペーン名を考案 <p>③同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標は予算案参照 ・単発寄付が好まれる傾向のため、特に勧誘等は行わない方針

2018年度 組織強化 計画	2018年度 組織強化 報告	2019年度 計画案
<p>【物品寄付】(2004年より開始)</p> <p>①物品寄付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きしゃぼん古本募金 20名以上の参加目標 ・使用済切手 約100kg の収集目標 ・レア切手 は引き続き換金予定 ・未使用切手も収集予定 ・切手仕分隊の継続参加 ・郵便ハガキ 3,000枚 目標 ・その他金券、文房具等 適宜受付 <p>②物品寄付の協力</p> <p>企業・団体40社、個人90名 目標 (昨年は35団体、個人69名)</p> <p>③企業団体との連携協力</p> <p>④自治体のボランティアセンターとの協働</p> <p>ちよだボランティアセンター、東京ボランティアセンターへ情報提供</p>	<p>①同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きしゃぼん9→37組(複数あり) ・使用済切手130kg 117,000円 ・レア(海外等)切手3,440g 6,880円 ・海外紙幣硬貨16,880円分を換金(2018年度より募集開始) ・その他金券や物品換金61,925円 ・未使用切手612,404円(うち切手仕分隊が発見した切手470,016円) ・郵便ハガキ74,305円(1,493枚分) ・その他文具等の事務局使用品や新品マスク2,000枚の寄付 (スンバ島の病院へ送付) <p>※今期よりあらたな寄付方法としてヤフオクを利用したブランド品等の寄付も開始</p> <p>②同左</p> <p>物品寄付の協力 企業・団体36社、個人86名 計122</p> <p>③同左</p> <p>切手の資金化、仕分けボランティア 企業団体 10社が参加</p> <p>④自治体のボランティアセンターとの協働</p> <p>東京ボランティアセンター主催「夏のボランティア体験会」に78人登録、定期ボランティア(個人)では約40人が単発参加。ちよだボランティアセンター企業ボランティアクラブの制度で寄付2万円弱が入金予定。</p>	<p>①同左</p> <p>目標は予算案参照</p> <p>ハガキの値上げ、切手需要の落ち込みなどがあるため海外通貨の寄付、ブランド品やジュエリー品の寄付など、新たな寄付方法を模索する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付付き自動販売機 ・寄付付き商品のコラボ <p>などを検討中。</p> <p>②同左</p> <p>物品寄付の協力 企業・団体40社、個人90名 目標</p> <p>③同左</p> <p>切手の資金化ボランティア企業・団体 5社 目標</p> <p>④同左</p> <p>東京ボランティアセンター主催「夏のボランティア体験会」に登録、東京とちよだボランティアセンターでのボランティア広報登録を引き続き行う。場所の確保とボランティア内容が乏しいため、需要と供給に気をつけ募集を行う。また企業ボランティアクラブを活用予定。</p>



ハガキのカウントボランティア



募金案内の封入ボランティア



認定NPO法人サービスグラントより
プロボノワーカーの紹介



切手の資金化ボランティア

2018年度 組織強化 計画	2018年度 組織強化 報告	2019年度 計画案
<p>【内部強化】</p> <p>① 年次総会の開催 2019年5月26日(土)に開催予定</p> <p>② 各種委員会 ・2~3カ月に1回、定期的な開催 ・定期的な外部公開日を設ける</p> <p>③ 組織強化のための職員の研修参加</p> <p>④ 通信機器・情報・受信機器環境整備 ・会員管理ソフト変更、セールスフォース社の管理プログラムの検討 ・オフィス2007から2016への更新作業の実施 ・認定NPO法人サービスグラントと企業ボランティアの協働予定</p> <p>【広報】</p> <p>・会報「みらいの樹」73~76号 計4回発行予定 ・メルマガを月1回配信 ・イベント情報のチラシ作成とネット掲載 ブログ更新70回目標、facebookは積極的にイベントグループへ掲載</p>	<p>① 同左 2018年5月26日(土) 通常総会の開催 2018年7月28日(土) 臨時総会の開催 平成24年および平成29年NPO法改正に伴う定款変更を実施。 可決された定款変更案は8月に東京都へ提出、3月に承認が下りた。</p> <p>② 同左 運営委員会および理事会の開催は以下の通り ・2018年4月21日(土) 理事会 ・2018年5月15日(土) 理事会 ・2018年9月19日(水) ・2018年11月14日(水) ・2019年1月23日(水) ・2019年1月23日(水) ・2019年3月29日(金)</p> <p>③ 同左 ・ツアー安全管理講習2名受講 ・Salesforce 基本講座1名受講</p> <p>④ 通信機器・情報・受信機器環境整備 ・認定NPO法人サービスグラントのプロボノより勧められたSalesforce社を選択することで結論 ・すべてのパソコンを寄贈品のOffice2016に移行済み ・パソコン2台を寄贈価格で購入 ・その他、Windows10更新、電話、外付けHDD、パソコンなどを購入 ※寄贈品は認定NPO法人日本NPOセンターのテックスープを利用</p> <p>【広報】</p> <p>・会報みらいの樹76~78号 計3回発行 ・メルマガ月1回配信 ・各種メディアやボランティアセンターでの広報利用 ※閉鎖や有料となったサイト等には掲載取りやめ ・フェイスブックやブログ更新適宜</p>	<p>① 同左 2019年5月25日(土)に開催予定</p> <p>② 同左 ・2~3カ月に1回、定期的な開催 理事会の開催 ・4月27日(土) ・5月25日(土)</p> <p>③ 同左 ・ツアー安全管理講習 ・ファンディング講習 ・職員スキルアップ講座等の出席</p> <p>④ 通信機器・情報・受信機器環境整備 ・会員管理ソフトの移行作業の開始 ・残り2台のPCをWindows10更新か購入を検討 ※テックスूपかりユースボランティアの手を借りる予定 ※移行作業に膨大な作業時間がかかる見通し</p> <p>【広報】</p> <p>同左の内容を継続予定 ・認定NPO法人サービスグラントのプロボノと共同でLIFE公式WEBの改善を行う予定。 ・郵便代の値上げに伴いみらいの樹の他に年次報告書の作成を検討</p>

2018年度 組織強化 計画	2018年度 組織強化	2019年度 計画案
<p>【資金調達方法】</p> <p>① 自動引落の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続会員が入金後に自動振替をおススメする ・旧自動引落の利用者は7名は継続的に変更のお声掛け ・転居先不明者の行方を調査 <p>② インターネット募金広告の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GiveOne（運営：公益財団法人パブリックリソース財団） ・グーグル無料広告の配信予定 <p>③ 認定 NPO 法人取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都の実地調査に向けた事前準備、認定取得後を見据えたインフラ整備 	<p>① 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者4名 <p>② 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用し匿名寄付者が増加 ・実施には至らず。グーグル無料広告についてはアカウント申請済み <p>③ 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都の実地調査を8月に実施。会計の不備を指摘され認定にはならず。 ・認定に向けて公的書類を確認したところ不備が多く発見され修正作業を行った。また実地調査時にも都への書類提出の不備を多々指摘された。 	<p>① 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役世代を中心に自動引落を依頼予定 <p>② 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングサイトの利用 ・Giveoneの継続利用 ・グーグル無料広告の積極利用 <p>③ 同左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指摘された会計不備は2017年度で修正済み。問題のない年度で再申請の考え。(2018、2019年度の会計で2020年度に申請予定が最短) ・指摘された書類不備は修正する必要がある。

■2018年度 ひまわり募金チラシ

寄付先はどこ？

- ゆうちょ銀行 00180-9-400590
- みずほ銀行 飯田支店 (普通)1693261 地球の友と歩む会
- クレジットカード 【ギブワンLIFE】で検索

活動写真

2018年度 夏のひまわり募金

活動期間：7月～9月

特定非営利活動法人 地球の友と歩む会 / LIFE

自給自足できない。バナナも採れなくなった。

自然のサイクルでは、もう暮らしが成らない。自然のサイクルでは、もう暮らしが成らない。自然のサイクルでは、もう暮らしが成らない。

インドネシア スンバ島はかつてのバナナ産地。数年前までは近隣の島へ輸出していたのに今は輸入しないといかない現状です。

特定非営利活動法人 地球の友と歩む会 / LIFE

■2018年度 クリスマス年末募金チラシ

「自然と共生し、自立して暮らせる社会」

1日70円の寄付が1ヶ月分あれば、村人が自給自足できない野菜の種を輸入して育てます。アタラの寄付で、野菜が育ち収穫できるまで待つことができない。

- ゆうちょ銀行 00180-9-400590
- 寄付サイト give one
- 寄付サイト つながる募金

特定非営利活動法人 地球の友と歩む会 / LIFE

インドネシア共和国 スンバ島 東部

自然と共生した農業研修を1ヶ月の男女20人に実施して貧困をなくす。

20の村人を対象に、約4倍の向上が見込めます。

特定非営利活動法人 地球の友と歩む会 / LIFE